

認知症の発症・進行予防を目指した「攻めの歯科医療」

日本歯科大学新潟生命歯学部高齢者医療学 教授 道川 誠氏



略歴
1985年3月 東京医科歯科大学医学部卒業
1985年5月 東京医科歯科大学医学部神経内科研修医
1986年1月 武蔵野赤十字病院内科（神経内科）医員
1987年4月 関東中央病院内科（神経内科）医員
1988年5月 都立駒込病院内科（神経内科）医員
1990年5月 東京医科歯科大学医学部神経内科・助手
1990年12月 University of British Columbia (Vancouver, Canada) 留学
1994年9月 東京医科歯科大学医学部神経内科助手
1996年3月 国立長寿医療センター・アルツハイマー病研究部・室長
2005年10月 国立長寿医療研究センター・アルツハイマー病研究部・部長
2012年4月 名古屋大学・大学院医学研究科 教授
2017年4月 名古屋大学・大学院医学研究科長・医学部長
2019年10月 名古屋大学・大学院医学研究科・脳神経科学研究科長
2021年4月 名古屋大学・学長補佐
2022年4月 名古屋大学・副学長
2023年4月 日本歯科大学新潟生命歯学部・高齢者医療学教授 現在に至る

8/5

2024年第1498号

(毎月5、15、25日発行)

大阪府歯科保険医協会
発行人 和田 武
大阪市浪速区幸町1-2-33
電話(06)6568-7731(代表)
http://osk-hok.org/
●定価・年間10,000円 月1,000円
●1977年5月23日第三種郵便物認可

長寿は喜ばしいことだが、高齢化が進めば認知症の発症件数も多くなる。誰もがかかりうる認知症に対して、歯科受診や口腔ケアが認知症の発症や進行予防に良い結果をもたらすことが分れば、開業医としては患者に歯科治療の有効性を説明し、患者の歯科受診のモチベーションを上げることが出来る。日本歯科大学新潟生命歯学部の道川誠教授に、認知症に対する歯科の有効性について寄稿してもらった。

はじめに

超高齢社会の我が国では、認知症患者数は2040年には584万人(MCIが612万人)に達すると推計され、その6割以上を占めるアルツハイマー病への対応は急務です。昨年末に、疾患修飾薬・レカネマブ(抗体医薬)が米国ならびに日本で承認され、いよいよ実臨床での導入が始まりました。一方で、誰でもなり得る疾患であるがゆえに、治療法開発とともに、真に有効な発症予防・進行予防法の開発は重要です。以前より歯周病(炎症)や歯牙欠損(咀嚼機能低下)と認知症・アルツハイマー病との関連が、多くの疫学研究によって指摘されています。しかし、両者を結ぶ因果関係の分子基盤は十分に検討されてはいませんでした。私たちが13年前からアルツハイマー病モデルマウスを使った研究を開始し、アルツハイマー病分子病態

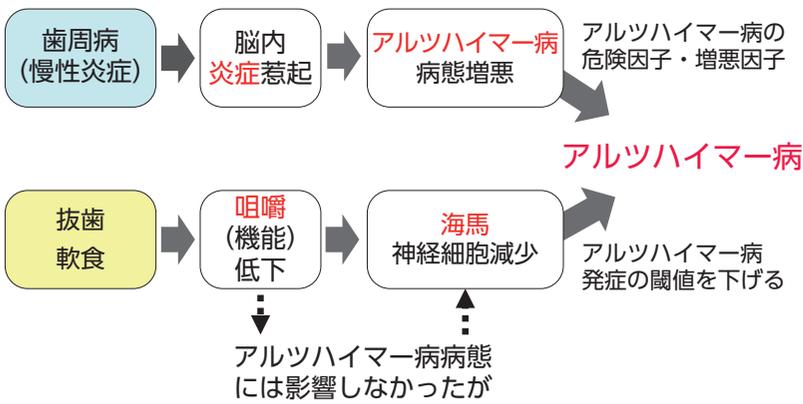
と歯周病ならびに歯牙欠損・咀嚼機能障害とを結び分子機構解明に関する研究を行ってきました。その結果、歯周病や歯牙欠損・咀嚼機能障害は、いずれも認知機能障害を増悪させることが明らかになりましたが、興味深いことにその分子機構がそれぞれ異なるというこ

アルツハイマー病など 認知症と歯科疾患の関連

と歯周病ならびに歯牙欠損・咀嚼機能障害とを結び分子機構解明に関する研究を行ってきました。その結果、歯周病や歯牙欠損・咀嚼機能障害は、いずれも認知機能障害を増悪させることが明らかになりましたが、興味深いことにその分子機構がそれぞれ異なるというこ

とが分かりました。歯周病マウスでは、口腔内の炎症が脳内に波及し、脳内炎症がアルツハイマー病分子病態(アミロイドβタンパク質の産生、沈着)を増悪させますが、歯牙欠損や咀嚼機能障害では、アルツハイマー病分子病態には影響せず、海馬神経細胞を減少させるということが明らかになったのです。これらの結果は、認知症の発症予防や進行予防を考える際には、それぞれの歯科疾患別のアプローチが有効になることを示していると考えられます。さらに、ヒトにおいて歯周病や歯牙欠損の予防・治療・口腔ケアによって、アルツハイマー病の発症予防や症状緩和に効果があることを明らかにできれば、その意義は大きいと考えます。

歯科疾患とアルツハイマー病



認知症と歯科疾患との因果関係の解明を 目指した我々の研究

私たちの研究グループは、これら歯科疾患のアルツハイマー病などの認知症に与える影響について、アルツハイマー病の

ことがより重要です。近年、歯周病がいくつかの全身疾患の誘因・増悪因子となることを示す科学的根拠が蓄積されつつあります。例えば、歯周病が心血管系疾患、誤嚥性肺炎、糖尿病などのリスク因子となることが報告されています。さらに、アルツハイマー病などを含む認知症に歯周病や咀嚼機能低下(歯牙欠損など)が関わっていることを示す疫学研究も数多くあります。しかし、両者の因果関係についての基礎的研究は、十分になされていなかったことから、歯周病などの口腔内炎症や歯牙欠損・咀嚼機能障害などがアルツハイマー病など認知症の分子病態に本質的に影響するかどうか、また影響するとした場合に、どのような分子機構で認知症(脳内への影響)発症に影響を与えているのかが不明でした。

守りの歯科医療から 攻めの歯科医療へ

私は、いままでアルツハイマー病の基礎研究に従事し、認知症外来を行ってきましたが、歯科医師からの質問の多くや歯科治療の課題として多いのは、認知症患者に対してどのように歯科治療を提供すべきか、に関するものです。これは日常の歯科治療にとって非常に重要なことでもあります。ある意味で、守りの歯科医療とは、守りの歯科治療です。私が本稿で強調したいのは、そうした守りの歯科医療ではなく、歯周病や歯牙欠損、

お知らせ
本紙は、8月5日付・15日付の合併号です。
協会は10~18日まで休務となります。

強者が正義では無く、対話を軽視し判断を煽る者こそ危険である。自国優先主義、移民排斥など単純で短いフレーズを強い言葉で繰り返す訴え、民衆の心を掴んでいくカリスマ的指導者に導かれると、多くの悲劇が生み出される事は、歴史の常である。悲惨な歴史に真摯に向き合い学び続けなければ、人々の中で悲劇の記憶が薄れていく頃に、またポピュリズムが台頭し、多くの不幸を招く事となる。(N)

狙撃されても星条旗を背に拳を突き上げる姿で、トランプ氏は力強い指導者として印象付けられ、大統領選挙の行方も、もしトラから確トラなどと報道されている。しかし、身を呈してトランプ氏を護っていたSPの危険も考えず、パフオーマンズを優先したトランプ氏の人間性が窺える。他の被害者を気遣うより、自分の強さをアピールする事の方が大事なのであろう。今回の狙撃事件の場面からも自己中心的な人物像が垣間見えるが、トランプ支持者はそうは思わない様である。